

環境文化フォーラム 5周年記念シンポジウム

2025年
9月6日

記念講演

環境学習のススメ

記念講演として当会顧問の川嶋宗継滋賀大学名誉教授から、日本の環境教育の50年にわたる歴史と発展、国際的な環境会議やSDGsの目標、倫理的観点からの環境問題、体験型学習の重要性などをお話しされ、そのなかで、滋賀県の先進的な取り組みや国際協力事例、次世代育成と持続可能な社会実現に向けた教育の役割を強調されました。



川嶋宗継滋賀大学名誉教授
環境文化フォーラム顧問

川嶋先生の講演より

環境教育や環境学習は、環境問題への対応にとどまらず、人が生きていくための価値観や文化を次世代へ手渡していく大切な営みです。自然に触れ、自分の感覚で感じ、考える経験は、子どもたちの「生きる力」を育てる基盤になります。私自身、チェンマイ大学で環境研究に関わり、現地の子どもの自然体験を行った経験があります。山あいの集落で暮らす子どもたちを町の外へ連れ出し、澄んだ水に触れたときの驚きや笑顔は、今も強く印象に残っています。その体験を通して、子どもたちの中に「きれいな自然とは何か」という基準が自然と育っていくのを感じました。また、環境教育においては、指導者がすべてを知っている必要はありません。分からないことがあれば、子どもたちと一緒に考え、調べ、育てます。知識を一方向的に伝えるよりも、同じ体験を共有することが大切です。近年はデジタル機器の普及により、自然を画面越しに知る機会が増えていますが、だからこそ、五感を使った本物の体験が重要になります。身近な自然でも構いません。実感を伴う学びを重ねることで、環境への関心と、生き抜く力は確かに育っていくのだと思います。



環境教育の大切さを経験をもとに話される川嶋先生

エコふん寄席 虫と環境

3年連続3回目のエコふん寄席を太田酒造の道灌蔵で開催致しました。

今年は「虫と環境」をテーマに面白おかしく楽しんで頂けました。

6月に虫…だと、虫を連想するのですが、裏をかくて虫の餌になってしまうカワニナを主人公にしました。身近な水路や小川に生息する生き物に焦点を当てる事で、環境の重要性を感じて頂けたと思います。

カワニナ研究者の東大/澤田先生の貴重なトーク、お馴染みのよし笛演奏、落語寸劇は太閤と曾呂利…カワニナはカワいいナア



2025年6月14日

於：太田酒造 道灌蔵

私の信条

川嶋先生の当日パワポより転用

- 子どもたちが、自らの意欲をもって参加できる体験学習の場を設定し、自然の事物・現象に接し、人間社会の今日の姿を観る工夫をする。
- 実験・観察・調査・物作りなどの直接経験をできるだけ多く探り入れ、子どもたちが探求的な態度、科学的な見方・考え方、技能を身につける工夫をする。
- 子どもたちが楽しく継続的に学習できるよう工夫する。

そして、

- 知識を与えるという態度から、一緒に学ぶという気持ちへの転換をはかり
- 自分の手で教材を作るという能動的な態度で、
- もっと環境について知りたいという子どもたちの知的欲求を満たす学習教材をつくるよう努める。

「環境文化を次世代に継承する」 パネルディスカッション

宮城理事長の司会のもと、「環境文化を次世代にどう伝えていくか」を4人のパネラーから話題提供とともにフロアからの意見交換を行いました。



（一社）北の近江マザーレイク共創会議 三和伸彦 代表
山内エコクラブ 堀王貞紀 代表
あおむしくらぶ 野村早枝 代表
草津市教育委員会 中村大輔 係長

○三和伸彦さん・マザーレイクコープの生みの親、「琵琶湖は暮らしを映す鏡だから、そこに映っている琵琶湖が汚れる、何かおかしい」というのは自分たちがおかしいという信念で活動。

○中村大輔さん・学校教育でESDを積極的に進めている。草津市が目指すESDは「社会の一員としての意識と行動力を育てる。意識は郷土の愛着、行動力は社会のため行動する力。」この2つが必要と熱く語る教育現場の実践者。

○堀王貞紀さん・行政保健師。仕事柄、健康の視点から心の健康を考えるうえで、こもから高齢者まで夢と生きがいを持つ地域を目指して活動。そこに地域の自然、文化、環境の観点を取り入れ、地域の方々やこどもが主体的に動けるような場づくり。

○野村早秋さん・草津に引越してきて、地域に入れる川がある、生き物がいるという何気ない気持ちから母親同士や地域の方々と一緒にこみ拾いからスタート。やっていたうちに子どもたちも親も新しい発見があり面白い。身近な川だけに大切にしていきたい思いで活動。

我々の地域は米文化、農耕文化を大切にすることが原点でないか、環境問題を考えるうえで、私たちの知らないことはいっぱいある。ここに目を向けていくことが重要ではないのか、「ないものねだりよりあるものさがし」地域にはいっぱい環境文化につながる資源がある。これを掘り起こして伝えることが重要であるといった意見が出されており、あらためて環境文化を考える機会となりました。

環境にやさしい週間 エコフォーラム

2025年
7月8日

於：キラリエ



落語寸劇「太閤と曾呂利」
九冊八幡帆



カワニナ研究者 澤田先生のトーク



講師
国立環境研究所
畑斐さん

「脱炭素社会の達成に向けた物資フローの革新」の演題で国立環境研究所の畑斐さんに講演していただいています。畑さんは2001年から行われた「草津市こども環境会議」で第2回、3回の小学生パネラーとして参加され、それを知っている方が会場にたくさん詰めかけたよう、熱心に学んで頂きました。

畑さんも講演の内容をできるだけわかりやすい表現で話していただき、質問のコーナーではたくさんの方から手が上がり疑問点を積極的に問われる様子が見られました。このような参加者の姿勢に畑さんも驚いておられました。ゼロカーボンシティ宣言をした草津市で最先端の研究をされている地元出身の学者から貴重な話を聞く機会となった意義のあるエコフォーラムでした。



参加者75名で5周年集合撮影



熱心に聞き入る受講生



展示コーナー市民閲覧

今後、当フォーラムは環境文化を大切に、市や県の方々と協力して環境文化を広げる活動を続けてまいりたいと思っております。これからもご支援賜りますようお願いいたします。



司会：（一社）環境文化フォーラム 理事長 宮城成和